



質問者
松下信一郎議員



市長の施政方針と平成31年度予算、32・33年度財政計画について

【問】投資的経費が平成31年に40億円に増額され、32、33年度計画予算ではさらに増額し、その財源は繰入金、市債の増額へつながっているが、これは「未来への人づくり」「未来への基盤づくり」への事業を計画的に実施していくためか。

【答】平成31年度当初予算是、合併後最大となる。主な要因として、庁舎整備事業の工事着手、認定こども園整備事業、たつの市民病院の地方独立行政法人への移行経費、企業立地奨励金及び扶助費の増加によるものである。

特例債を充当し、たつの市民病院の地方独立行政法人移行にかかる操出金は、基金の取り崩しによ

り対応している。平成32・33年度の投資的経費は、庁舎整備事業、駅周辺整備事業及び認定こども園整備事業によるものである。平成31年度予算では、投資的経費をはじめ、子育て世代の負担軽減や妊娠から子育てまでの切れ目のない支援が行えるようソフト事業の充実も図ってみたい。

【問】扶助費の増額を抑制する手立てを考えているか。

【答】扶助費は、国の施策による障害者自立支援及び民間保育所施設型給付の大幅な増加のほか、急速な高齢化に伴う社会保障費の増加により、今後も増加の一途であると見込んでいる。本市の扶助費の伸びは、県内市町との比較では概ね同様の増減推移となっている。扶助費抑制への取組として、平成29年度から実施している高齢者タクシー利用券の市民乗り合いタクシートリニティへの交換を実施し、平成31年からは敬老祝金の見直しを実施する。

生活保護の医療補助は、ジェネリック医薬品の使用促進を図っていく。

【問】三木露風生誕130周年記念の年に、童謡赤とんぼで市民の「オールたつの」意識を醸成することに取り組む考えはないか。

【答】本年4月から11月までの期間「三木露風生誕130年記念事業」を実施する。主な内容は、企画展「夏休み親子ミュー

ジアム露風大百科」として、親子で三木露風生家周辺のスタンプラリーを行う。また童謡「赤とんぼ」と「たつので生まれた童謡」を収録したCDを市内小中学校・幼稚園、保育所、認定こども園に配布する。市民・来訪者向け事業として企画展「露風と龍野」及び「露風と校歌」を龍野歴史文化資料館で行う。新たな取組としてJR本竜野駅で童謡赤とんぼのメロディーを流す計画をしており、今後も童謡赤とんぼの普及啓発に取り組む。

【問】母子健康支援センター「はつらつ」を新設し、妊娠期から切れ目のない子育て支援の充実を図るとあるが、支援体制・支援の内容とはどのようなものか。

【答】母子保健の担い手として新たに、助産師・保健師・看護師の3名を増員し、母子健康係の保健師・栄養士・看護師等と共に、妊娠期から就学前までの乳幼児やその家族に対する支援を強化する。

【問】子育て支援センター「すくすく」で、社会問題となっている児童虐待やDV、療育への対応をこれまで以上に充実・強化を図るところがあるが具体的にどういうことか。また、本市での状況はどうか。

DV・虐待などの事案については、子育て応援センター「すくすく」との連携を強化し対応する。

【問】新しい公・民の連携、協力関係を構築するとは、具体的にどういった連携、協力関係の構築をいつか。

【答】これまでの連携を進展させ、市民、NPO法人との連携・企業とのコラボレーションによる新たなまちづくり協働事業や「コミュニティビジネス」の展開に期待する。さりに地域ネットワークを構築し、それぞれの地域課題にマッチングした「ミニユーニティビジネス」が展開できるよう、行政としてできる限り支援していく。

【問】「未来応援住みまちたつの」の実現に向けて、これといった3つを上げるとすれば何か。

【答】①新しい次代を担う子ども、若者世代に対する切れ目のない施策の展開を行なう。

【問】市政推進の基本姿勢から

【答】②すべての市民が将来にわたって、安心して日々の生活を営む事ができるまちの強靭化。

③時代が求める自治体への転換、更なる行財政改革により、持続可能な「たつの市」の実現。



質問者
赤木和雄議員



【問】新規の公・民の連携、協力関係を構築するとは、具体的にどういった連携、連携を強化し対応する。

【問】未来への基盤づくりから

【答】今後、更に「子ども・子育て支援事業計画」策定業務において、当該アンケート結果とともに、当該自治体ランキングの評価項目も参考にして、新たな施策展開に向けた分析検討を行う。

【問】「未来応援住みまちたつの」の実現に向けて、これといった3つを上げるとすれば何か。

【答】①新しい次代を担う子ども、若者世代に対する切れ目のない施策の展開を行なう。

【問】2019年2月号の「田舎暮らしの本（宝島社発行）」の子育て世代が住みたい田舎部門において、本市が近畿5位になったと聞く。どの事業に高評価が得られたものと推察するか。

【答】各世代別に取り組んでいる施策が評価されたものと考える。加えて、転入者定住促進住宅取得支援や、たつので暮らそり子育て世代の転入が増加したことは、大いに意義のあるものと考える。